



碧南ロータリークラブ週報

第2190回例会 平成15年9月10日(水) 晴. 最高30℃. 最低24.4℃

- 会長 加藤 良邦 ● 幹事 竹中 義雄 ● SAA 杉浦 成人
- 例会日 毎週水曜日 12:30 ■ 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90
TEL<0566>41-1100 FAX<0566>48-1100
ホームページ: [http:// www.hekinan-rc.jp/](http://www.hekinan-rc.jp/)
E-mail: info@hekinan-rc.jp
- 会報委員 竹下 豊・新美惣英・鶴田光久・杉浦昌裕

2003~2004年度
国際ロータリーのテーマ
手を貸そう



Lend a Hand

● 斉 唱

国歌「君が代」

ロータリーソング「我らの生業」

● 本日のメニュー

和風弁当 大正館

● 本日のお客様

卓話講師 小牧RC所属 舟橋伸治様



ガイヤ造景研究所 主宰 舟橋伸治様

会 長 挨拶

私が住職になりまして26年目になります。その中で経験しました話しをさせていただきます。私ども浄土宗には尼寺があります。近頃は尼寺の後を継ぐ尼僧（庵主）さんが居らず、大変困っているようですが、私の小僧の頃はたくさんの尼僧さんがみえました。尼僧さんは女性を捨てて仏門に入ります。厳しい修行を積み、男の私よりキリッとしており、小僧の頃はよく叱られたものです。尼僧さんは何故か皆さん美形です。大浜の称名寺の末寺に清水庵という尼寺がありますが、ここの尼僧さんも若かりし頃はさぞかし……と思うほどの美形でした。私が住職になって間もなく、その尼僧さんが亡くなったという知らせを受けました。生前とてもお世話になったので、さっそく枕経のお参りに行こうと思い、清水庵に向かいました。が、清水庵には一度も行ったことがなく、教え聞かされた辺りをうろろしているうちに、白黒の幕が掛かった建物を見つけました。中を覗くと一人お婆さんが棺の前で木魚を叩いていました。そこが清水庵であるか定かではありませんでしたが、恐る恐る上がり込み、顔に掛かった白布を取りますと、なんと髪の毛の長い人が永眠っていました。「すいません。間違えました」と謝って逃げ帰ろうとする私に、老婆さんが「庵主さんですよ」と教えてくれました。長い入院生活の間に、剃髪にしていた頭に髪がふさふさと伸びてしまったということでした。尼僧さんは、女性に戻って浄土に往かれたのだと思いました。慌ててしまった時のお話しでした。ありがとうございます。

幹 事 報 告

第3回定例理事会の報告

創立45周年記念式典編成の承認

8月度収支の承認

杉浦正男君の退会受理

例会変更のお知らせ

- ・10月15日(水) ガバナー公式訪問のため 12:30～ 衣浦グランドホテル
- ・10月22日(水) インフォーマルミーティングのため 17:30～ 衣浦グランドホテル
- ・10月29日(水) 職場例会のため 12:30～ 七福醸造(株)

健康診断の案内配布承認

アオミJセンター助成金の寄贈の決定

委員会報告

〈出席奨励委員会〉

総会員数 75 名 (内出席免除者 14 名) 出席者 63 名	
出席対象者 53 / 61 名	出席率 86.89%
欠席者 12 名 (病欠者 0 名)	前々回修正出席率 98.3%

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

〈ニコボックス委員会〉

- 舟橋 伸治様 卓話のお礼をニコボックスに頂きました。
- 小林 清君 長い間ご無沙汰しています。亀山君には大変お世話になりました。
- 棚田 道和君 本日の卓話の講師 舟橋伸治さんを紹介します。
- 新美 宗和君 次男が20才になりました。
(早退4件 合計 28,000円)

〈社会奉仕委員会〉

市民ふれあいフェスティバル・チャリティーバザー [11月8日(土)～9日(日)] 販売品ご寄贈をお願い致します。日用品・雑貨・生ものを除く食料品・衣類など(未使用のもの)を一人一点以上、10月1日(水)・8(水)の例会時までにお持ち下さい。

〈職業奉仕委員会〉

健康診断については例年のようにお願いします。職場例会の七福醸造様について、駐車場は社員さんの好意であけて用意してあります。また、七福様のご好意により12:15迄にお越しの方はお抹茶の接待があります。たくさんの方の参加をお願いします。

〈創立45周年実行委員会幹事報告〉

創立45周年記念式典編成表を配布しました。会員各自で自分の役割を確認下さい。第3回45周年委員会を10月8日(土)例会終了後開催します。出席者は、正・副委員長、責任者の方々をリーダーと呼ばせて頂き、第3回はリーダー会議ともなります。欠席の方は代理を必ず出して下さい。各委員会で事前に打ち合わせを行い、出席下さい。

また、永井実行委員長の方針を再度確認させて頂きます。

- ① シンプルなものである。
- ② 会員を中心としたアットホームな会である。
- ③ 来賓・外来の方に十分な心遣いをする会である。

の3つが主です。どうぞ宜しくご協力下さるようお願い致します。

卓話

「風土美学—百姓道のすすめ—」

ガイヤ造景研究所 主宰 舟橋伸治様

皆さんこんにちは、私は小牧RCに入っており、今例会が行われています。卓話をさせて頂きながら、メイクアップをさせて頂くと共に私にすばらしい試練を与えて下さった碧南RCの皆様に感謝を申し上げます。

私は百姓をしております。また農業の理事とそれから発生する色々な職業を作っていく仕事を

もしています。百の姓と書いて百姓。我らの「業」はどこにあるかという百個もあるのでおまえは何者かといわれます。私はRCで造園業という職業分類に入っていますが、最近レストランを小牧方面に始めました。農地土レストランといい、土を作って無農薬で野菜を作り、その地域の材料で食事をして頂いています。流行っており、健康、環境志向に合っていると思います。

私は去年、会員増強委員長をし、「業」に拘らず探し7名増員しました。それをかわれ今年、沈滞気味のRCの増強していく役目を担わされています。新しい事にチャレンジして行くことは、新しい仲間に加え新しい技術が身についていくことになるので、私は試練をあまり躊躇せず行っています。たくさんの「業」を作っていますが、バラバラに多角経営を行っているではありません。自分の持っている技術・資産をどう上手く細分化して、独立させて、たくさんの柱で、自分の業をどうさせるか、です。建設業もやっており、1本の柱より多くの柱が大切なことは身にしています。これを多柱経営といっています。これだという目標は地球環境に配慮しながら地域に貢献できる業を作っていくことです。

次に今日はそれに似た話の「百姓道のすすめ」お手本の資料を参考にして掻い摘んでお話させて頂きます。

私が考えている自然観を「百姓道」の前提として話させて頂きます。まず我々が生きている地域があり、地域特有の自然があり、その自然と人の営みが重なって産業があります。またそこから地域の持っているポテンシャルを有効利用していないから歪が出てきて問題が発生し、産業が衰退していく。自然の中で人間が進化してきたことを考えると、私の好きな語に『ダーウィンの進化論』の中の「生き残った生物は強く大きなものではなく変化に対応した生物である」があります。日本の中でも同じ構造があります。日本で今までずっと生き続けたのは、天皇陛下、そして百姓ではないかと私は思います。多くの権力から生き残ってきた百姓に学ぶものがたくさんあるのではないかとまとめてみたのが切っ掛けです。

まず風土というのが変化する自然環境で、4つの部分からなっています。A気象、B地勢、C地下資源としてA～Cが重なって必然的に生まれたD生態系の4つが自然の構造といえます。人の問題として気象を変え始めていることとその根幹にあるのが60億から2030年には80億になる人口の問題があります。これは大変だということ、少しでもお役に立てるように地域で自立型のコミュニティを作っていくモデルケースを作りたいと思い、環境に配慮した産業をどう作っていくか十数年活動しています。人類がこれからどう生きて生き残っていくか大命題が1つ、自分ひとりではできませんがまず自分から、自分の業をどう変えていくかと思っています。

それからコミュニティの構造があります。これはa生産（産業・経済）、b生活（家族・地域）があり、a bを上手く活用して、c文化（生活様式・伝統・祭）がある。自然条件に合わせて生産と消費が始まり生活すなわちコミュニティが生まれてくる。村の真ん中に神社があったりして、文化があり、その中に助け合う「ユイ」「講」という今でいうファンドですが、道具を貸し借りするもの、人を貸し借りするものなど、百姓が作ってきた文化の中にボランティア、NPO的な組織がありました。今でも少し残っています。そういう地域の組織を上手く利用しながらボランティアを進め、拡大していく仕事もしています。フォーラム 21、NPOセンターというNPOをサポートしていくNPOの理事をしています。

今、新しい仕事を地域に作っていき就職先、新しい産業を作っていく種まきをしています。

風土というのは恩恵と災いを併せ持った自然と人との営みが長期に渡って相互に依存しながら先に創り上げた歴史そのものです。人口増加を考慮した継続可能な社会システムを非常に小さなエネルギーで作れないか、そういう中から効率良い継続可能な産業が生まれないのかのモデルケースを提案させて頂く仕事もしています。

だいたい以上が基盤となって百姓が生まれてきています。百姓というのは何かというと一次産

業から三次産業まで全てを賄う人です。三次産業というとサービス、一次二次以外のその他産業ですが、私は三次産業がGDPの50%を超えるような国がその他の産業とってはおかしい。一次の農林水産業が環境を保全するという大きな役割があり、その役割を経済だけがやっていく、その時にどんどん大きくなっていく三次産業の内容の人作りを四次産業にし、もう少し職業分類を増やしていき、四次産業をその地域特有の文化を発展していくものと考え、芸術・文化・観光・教育・福祉・情報などのユーザーを自己実現に向けていく産業を四次産業と思います。そして肝心なのが五次産業です。なぜかといいますと、宗教も産業に組み込んでいく、精神的な人間の支柱を産業としなければ行政が行っている行政が肥大していくばかりです。約束事が守れるコミュニティを作っていくとしたら宗教、道德感が主になるものです。その宗教、道德感を皆で支えていく仕組みが必要になります。そして、それに変わるものとしてもう少し広い地域で仲間が集まったNPO・ボランティアが五次産業に入ると思います。

イギリスに取材に行ったとき、チャリティというNPOの人たちの8%位がNPOに就職して、大きな実績を上げていました。その代わり極端に行政を小さくしていますが、その代わり、公益法人が生まれてきています。日本でもこのたび特定NPO活動法人法が施行されました。小牧でNPO支援条例を作ろうとしています。大口は全国で8番目にできました。百姓型産業構造は五次産業が頑張らなければ一次産業は衰退したままになってしまいますが、環境保全にかかわる農林水産業の方々が増えてきました。「魚好林」といわれる漁民が山に広葉樹を植え、海に流れ込む水の栄養分を高め、魚の育つ環境を整えています。川の流れる地域の水を守ろうとする活動です。これはボランティアで行われています。コミュニティを守るためにする、これが仕事・業だと思います。行動と理念が一致しているのが「業」というのではないかと思います。実はこれが本当の意味の「業」と強く思うようになりました。私の仕事が「業」と一致するように努力したいと思います。

私は安城にもさくら茶寮というレストランを開いています。是非お越し下さって、私のしていることを見てください。本日はどうも有り難う御座いました。

次回例会案内／9月24日（水）「きれいな息のつくり方」

会員 伊藤 正幸君